

共愛学園前橋国際大学

平成 27 年度
大学改革推進事業
(大学教育再生加速プログラム)
実績報告書

平成 28 年 3 月

共愛学園前橋国際大学の「大学教育再生加速プログラム」(AP)

共愛学園前橋国際大学は「学生中心主義」と「地域との共生」を行動指針に掲げ、既にアクティブ・ラーニング (AL) を用いた授業に全専任教員が主体的に取り組んできました。また、教育環境においては、大学全域に無線 LAN を完備し、全学生に小型携帯端末を持たせるユビキタスキャンパスを構築したり、全国に先駆けて AL 専用に設計された学舎 KYOAI COMMONS を建設したりするなど、学生主体の学修に注力してきました。AP ではこの先進的な教育をさらに充実・発展させて学修質保証システムを構築し、自律的学修者の育成とエビデンスに基づく検証・改善を行います。

以下、AP の事業計画および平成 27 年度に実施した取組について報告します。

<目次>

I. AP 事業計画

II. 学修質保証システム基盤整備

- ・アクティブ・ラーニングの質保証を推進のための特任研究員の採用
- ・ICT システムの改修・運用
- ・ライティングピアチューター制度の運用と学修支援相談に関連する図書館員等の研修の実施
- ・本事業に係るフライヤー等の作成・配布、その他広報活動

III. 学修質保証システムの構築

III-1 学修の達成目標の明示

- ・学生の学修状況把握のための外部評価の実施
- ・暫定的学修成果指標の策定

III-2 アクティブ・ラーニングの質保証

- ・アクティブ・ラーニング質保証に関する指標開発
- ・アクティブ・ラーニングに関するシンポジウム、スキルアップFDの開催

III-3 学修成果の可視化による主体的学修の支援の充実

- ・学修行動調査の実施
- ・KCG（ポートフォリオ）を活用した学修成果の蓄積とリフレクション
- ・SD/FD 研修の実施

III-4 学修成果達成度による教育改善

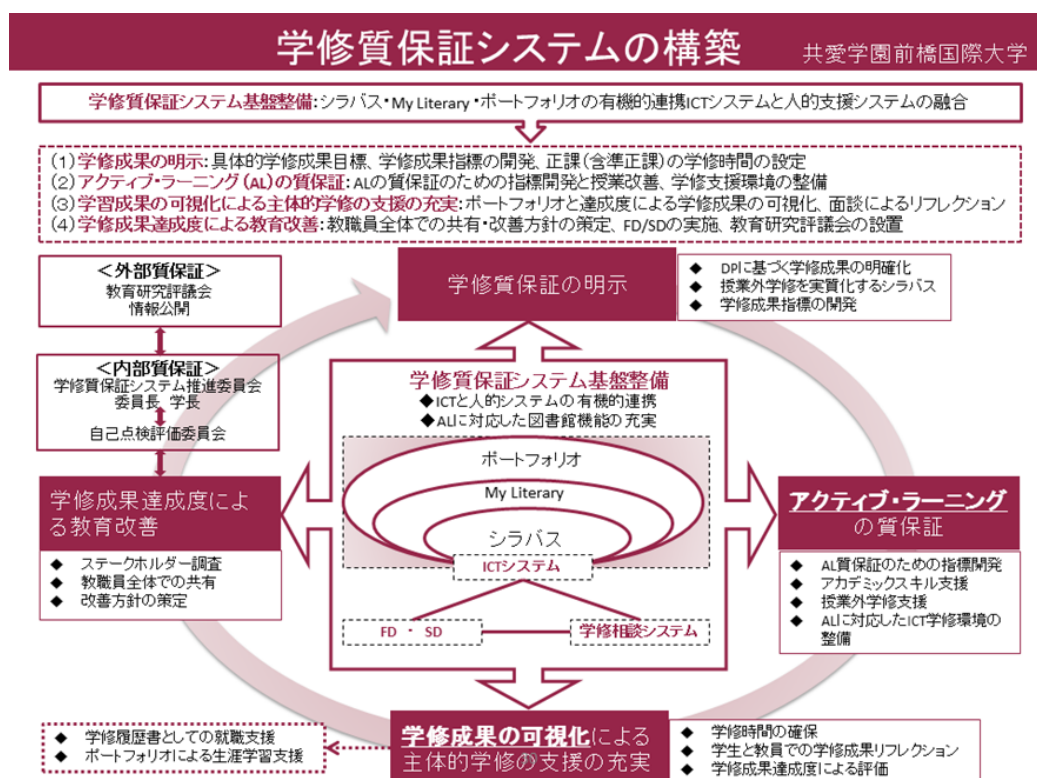
- ・ステークホルダー調査の実施
- ・他大学への視察、各種セミナーへの参加
- ・自己点検の実施

I . AP 取組みの事業計画

平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム」に採択された本学の取組は、AL の質保証と学修成果の可視化に取り組むことで、学生が自ら学び得た知を体系化し構築することを支援するとともに、教育の質保証の向上をめざすものである。

よって、本事業では、「学修質保証システムの基盤整備」を中心に据え、①学修成果の明示、②AL の質保証、③学修成果の可視化による主体的学修支援の充実、④学修成果達成度による教育改善を連続して展開し、「学修の質保証システム」を構築する。

これにより、今後ますます増加が予測される海外の大学や地域社会をキャンパスとする学びに対する質保証が可能となる。同時に、学修成果の可視化によって学修の質保証が進み、自律的学修者の実質的な育成が期待される。具体的には、学修質保証システムの一部を構成するシラバスを中心とした ICT システムの構築は、学生自身が獲得すべき知識を体系化する力を高めるとともに、エビデンスに基づいて自己の学修成果を評価できる能力を強化することが期待できる。学修質保証システムのもう一つを担う学修相談システムの構築は、教職協働で学生のニーズに合わせた学修支援を提供することで、学生を中心とした学修環境の充実が期待できる。また、AL の質の向上は、何を学んだのかの振り返り、自ら知を体系化することを可能とする批判的思考力を身につけるために不可欠であり、21 世紀を生き抜く力の獲得が期待できる。これらの取り組みの結果として、授業外学修時間の確保に役立つことが期待できる。



平成 27 年度の補助事業実施計画

1	04～03 月	・AP 推進委員会・APWG の運営 AP 推進委員会は全学的推進機構であることから、学長のリーダーシップにより学内各部署を連携させ、全学的に改革を推進するためのガバナンスを強化する。
2	04～03 月	・学修の質保証およびアクティブ・ラーニング質保証を推進するための特任研究員の採用 特任研究員を今年度より新たに採用し、学修質保証およびAL 質保証のための調査・研究を加速させる。
3	04～03 月	・ICT システムの改修・運用 シラバス、KCG (ポートフォリオ)、図書館情報システムをそれぞれ稼働させる。一部学生を対象としてポートフォリオの運用を前期に開始し、本格実施に向けた検証を行う。後期より本学独自仕様のポートフォリオを全学生対象に運用を開始する。また、学生に対してシラバス活用の利便性を高めるために、シラバスシステムの一部改修を実施する。
4	04～03 月	・本事業に係るフライヤー等の作成・配布、その他の広報活動 本事業の趣旨や取り組み内容を広報して理解を得ながら事業を推進するために、本事業のフライヤーを作成し地域・他大学等へ配布する。
5	04～03 月	・ライティングピアチューター制度の運用と、学修相談支援に関連する図書館員等の研修の実施 学生が学生に対し、レポート作成スキル等学修に関わるサポートを行うライティングピアチューター制度の運用を開始するとともに、図書館等で学生の授業外学修を支援する学修相談支援に必要な物的環境と運営体制を整備する。これらの事業に関わる図書館員・ピアチューター等のスキルアップの研修を実施する。
6	07 月	・学生の学修状況の把握のための外部評価の実施 学生の汎用性能力等の状況を把握するために外部評価を実施し、学修成果指標策定の基礎資料とする。
7	08～03 月	・H28 年度の暫定的学修成果指標の策定に向けた調査・研究の推進 ディプロマポリシーおよび昨年度の学修行動に対する調査、授業アンケートの分析、さらに地域産業人材要件アンケート結果や外部評価の結果・分析をもとに暫定的学修成果指標策定に向けた検討を進める。
8.	04～03 月	・アクティブ・ラーニング質保証に関する指標の開発 AL 基礎研究を進め、AL の質保証のための指標開発に着手する。
9	03 月	・アクティブ・ラーニングに関するシンポジウム、スキルアップFD 研修会の実施 AL に関するシンポジウムを開催することで、社会に対して本事業の成果の還元を図ると同時に、FD を教員全員参加で実施し、AL の質保証に対する見識を高めるとともに、本取り組みの共通理解を図る。
10	04 月	・学修行動調査の実施 学生の学修行動等の現状把握、課題の洗い出し等を目的とする学修行動調査を実施する。
11	09～03 月	・KCG (ポートフォリオ) を活用した学修成果の蓄積とリフレクション 学生には学修成果の蓄積と、後期の成績確定後に学修に対する総括および次年度の学修目標の設定を求める。教員は担当学生のリフレクションコメントを含む学修状況を確認する。なお、学生と教員によるリフレクションの成績処理の都合上、H28 年度早期の実施となる。

12	02 月	・SD/FD 研修の実施 学修成果の可視化および学修支援に関する情報共有、課題共有、改善点の洗い出しを目的とするSD/FD 研修を実施する。
13	04～03 月	・ステークホルダー（卒業生・主な就職先）調査の実施 ステークホルダー調査として、引き続き卒業生の情報収集を進めるとともに、卒業生の就職先を対象とした調査を実施する。
14	04～03 月	・他大学への視察、各種セミナーへの参加 先進的な取り組みなど本学の事業に示唆の大きい先進の他大学への視察研修、および本事業に関連する各種セミナー等への参加を実施する。
15	03 月	・自己点検の実施 本事業が当初目的の達成に向け、順調に進捗しているかを含め内部による点検を実施するとともに外部による評価体制を整える。

学修の質保証・ALの質保証を推進のための特任研究員の採用

特任研究員を配置することにより学修質保証およびAL 質保証のための調査・研究体制が整い、H28 年度に予定していた暫定的な学修成果指標の策定を1 年早めて策定することができた。また、各種調査結果はシンポジウムやFD で報告され、本学の現状を関係者に周知することができた。

さらに、KCG（Kyoai Career Gate：ポートフォリオ）の学生個人ページに履修情報を表示できるようにMIDS（教務システム）のシステム改修を実施した。履修科目をKCGに流し込むシステムを整えたことで、履修した科目がポートフォリオ上で表示されるために、授業の振り返りなどがよりスムーズにおこなえるようになった。

→ 教員はシラバス作成時に共愛 12 の力（学修成果指標）を選択することが可能となり、学生が履修時に参考にできるよう改修された。

H26 年度に導入した KCG では、学修成果指標に基づく自己評価システムの導入等、機能を本学仕様に充実させ、後期より全学性を対象として運用を開始した。

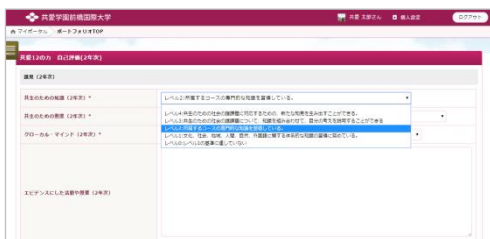
具体的には、横断検索機能、コモンルブリックを用いた「共愛 12 の力」の自己評価、自己評価に連動したレーダーチャートの表示、履修科目の情報の表示などの機能を追加して運用した。これらに加え、KCG+S（外部公開用のショーケース）の要件定義を行った。



KCG ポートフォリオ top



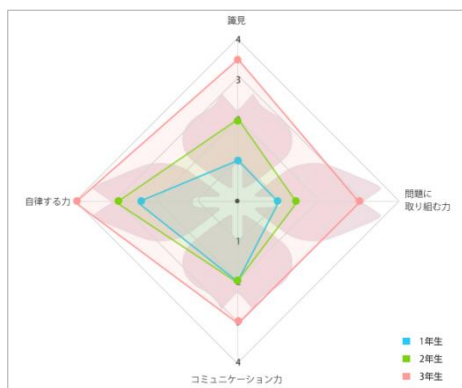
横断検索画面



ルブリックを用いたレベル選択とその根拠資料（エビデンス）記入画面



自己評価結果一覧画面



自己評価による学修成果レーダーチャート



KCG+S（ショーケース）

ライティングピアチューター制度の運用と学修支援相談に関連する図書館員等の研修の実施

ライティングサポート支援を主としたピアチューター制度（ラピタデスクLibrary Peer Tutor）をH27年度から実施した。これは学生同士が相互的に学びあうことを目的とする。H26年度に続きチューターのスキルアップのための実践的なライティングサポート研修を4月後半から実施し、5月後半から設備や体制を整え運用を開始した。7月・8月には、情報共有やロールプレイなどフォローアップ研修を実施した。後期は10月から開始し翌年1月まで活動し、2月に年間のチューターの振り返りとアンケートを実施した。また1年間を通してマニュアルの作成を行い、より充実した支援ができるように図った。

3月に津田塾大学で開催されたWCAJ（Writing Centers Association of Japan）主催“The 8th Symposium on Writing Centers in Asia”に参加し、「学士課程学生によるライティング・ピア・チューターの有効性と課題の検討」と題して活動成果をチューター学生と発表した。



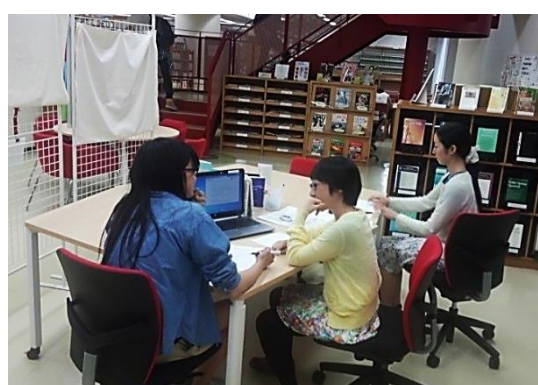
ピアチューター研修(ロープレ30分想定)



ピアチューター研修(グループワーク)



相談受付風景



相談受付風景



WCAJ発表風景

目次

1. 本学の取り組み
2. チューターの経験①
～チューター自身の成長～
3. チューターの経験②
～チューターから見た相談者の成長～
4. 有効性と課題

The Eighth Symposium on Writing Centers in Asia in Tsuda College, 2016.03.05

WCAJ発表スライド資料（目次）

本事業に係るフライヤー等の作成・配布、その他広報活動

学修支援に関する広報印刷物（名刺形2種各200部）およびポートフォリオ活用促進のためのクリアファイル（1000部）を作成し、全学生に配布した。印刷物はピアチューター制度の広報として図書館、コモンズ等学生の集まる場所に設置して学生だけでなく来学者への紹介として配布したり、視察対応時や視察訪問時に本学資料とともに封入したりして活用した。

またポートフォリオ利用促進のために作成にしたクリアファイルは説明書とあわせて配布することで全学生への周知が広まった（12頁参照）。

学修の質保証の取り組みに対する理解を図るため、本学AP事業のパンフレットを作成し入学予定者、在学生に配布した。このAP事業のパンフレットが配布されることにより学生は大学がどのようなサポートを提供しているのか知る機会を得られた。



ラピタデask広報用カード2種類

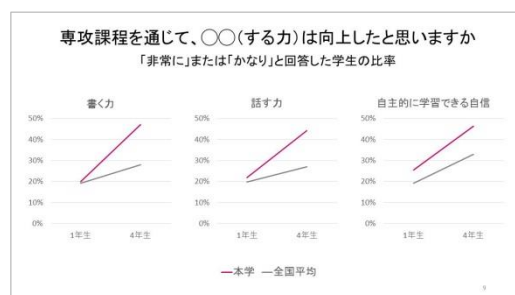
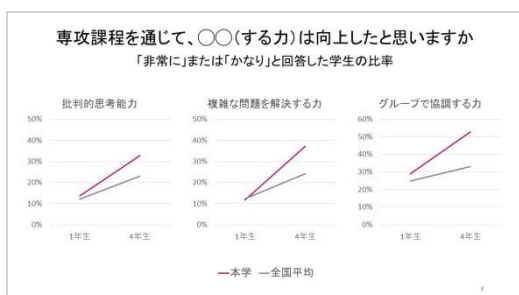
APパンフレット（中編）

Ⅲ. 学修質保証システムの構築

Ⅲ-1 学修の達成目標の明示

学生の学修状況把握のための外部評価の実施

学生の汎用的能力等の状況を把握するために外部評価としてPROG/JUESを実施した。PROGは1年生（6月）と3年生（11月）、JUESは7-8月にかけて1年生と4年生を対象に実施した（PROG参加者：1年生/247名、3年生/156名 JUES回答者：1年生/129名、4年生89名）。下級生と上級生の結果の比較から、本学学生の汎用的能力の伸長が他大学と比して非常に良好であることが示された。



JUES 結果（一部）

暫定的学修成果指標の策定

DP に基づき、本学の学修成果指標として、「共愛 12 の力」を予定よりも 1 年早く暫定的に策定した。加えて、本学の学生が卒業までに身に付けるべき力の達成度を自己評価によって確認することができるように、「共愛コモンルーブリック」の原案を作成した。これに基づき、教員を対象に担当科目と学修成果指標の関係や達成度に対する意見を収集して、原案を修正した。前橋市商工会議所との連携協定に基づき、地域産業人材要件のアンケート調査を実施して検証した（回答数：47 社）。最後に、一部学生へのプレ実施の結果を検討したうえで H28 年度版を決定した。学生は、これを活用することで自身の学修成果の達成度を知ることができるようになり、目標を立てやすくなった。

4つの軸	12の力	12の力の定義	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
識見	共生のための知識	多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識	共生のための社会の諸課題に対応するための、新たな知見を生み出すことができる。	共生のための社会の諸課題について、知識を組み合わせ、自分の考えを説明することができる。	所属するコースの専門的な知識を習得している。	文化、社会、地域、人間、自然、外国語に関する体系的な知識の習得に努めている。
	共生のための態度	多様な存在が共生し続けることを尊重する考えや行動	多様な存在が共生可能な社会のために、考え、学び、行動し続けることができる。	多様な存在が共生する社会の中で、自分ができること、やらなければならないことについて考えることができる。	社会が多様な存在で構成されていることを理解し、多様性を尊重する気持ちを持っている。	自分の態度や信念は他の文化やコミュニティの態度や信念とは異なっているという自覚をもっている。
	グローバル・マインド	地域社会と国際社会の関わりを捉え、両者をつなぐことで、地域社会の発展に貢献する姿勢	地域社会と世界をつなぎ、自らが暮らしていく地域の発展に貢献するビジョンを持っている。	様々な学びを通じて、地域社会と国際社会の関わりについて自分なりの考えを持っている。	母国以外の政治・経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。	自らの暮らし、学びの場である地域の経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。

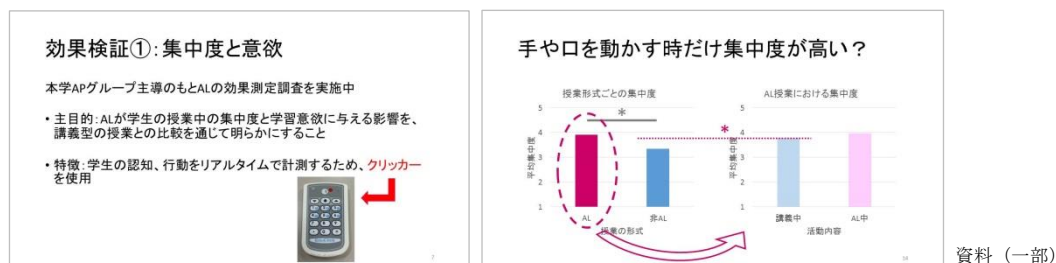
自律する力	自己を理解する力	自己の特徴、強みや弱み、成長を正確に理解する力	様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に表現でき、将来に向けての自分をイメージすることができる。	様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に理解することができる。	自らの興味関心や特徴、長所や短所について考えながら、授業や学内外の活動に参加している。	授業や学内外の活動を通じて、自分の興味関心のありかを確認したり、新たな興味の対象を見つけようとしていたりしている。
	自己を制御する力	ストレスや感情の揺れ動きに対処しながら、学びや課題に持続して取り組む力	ストレスや感情の揺れ動きと上手く付き合いながら、大きな困難に挑戦し、価値あることをやり遂げた経験と自信がある。	ストレスや感情の揺れ動きと上手く付き合いながら、困難な課題に取り組み続けることができる。	達成が容易でない課題でも、最後まで粘り強く取り組むことができる。	設定した目標に向かって、取り組むことができる。
	主体性	人からの指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけ、行動する力	達成困難な課題であっても、解決のための方法を模索しながら、自ら動き続けることができる。	自らすべきことを見つけ、行動し、その結果を振り返り、次の行動に活かすことができる。	指示を待つのではなく、自分の状況を判断した上で、自らすべきことを見つけ、行動している。	指示を待つのではなく、何をすればよいか、するべきかを見つけようとしている。
コミュニケーション力	伝え合う力	コミュニケーションにおいて、相手の意図を正しく理解し、自分の意図を効果的に伝達する力	レベル1～3を複数の言語で行うことができる。	適切なコミュニケーション手段、スキルを用いて、自分の伝えたいことをわかりやすく表現することができる。	コミュニケーションの状況や相手の立場を考慮して、伝達方法を工夫することができる。	発言や文章の論点を正しく理解することができる。
	協働する力	他のメンバーと協調しながら集団として目標に向けて行動する力	良いグループになるための条件を常に模索し、他のメンバーへの働きかけを通じて、グループの目標達成に貢献することができる。	多様な意見や立場、利害を把握した上で、グループ内の関係性構築に貢献できる。	グループでの自分の役割、責任を理解し、自分なりにグループに貢献することができる。	他者の発言をよく聞き、会話の流れをしっかりと追いながら、グループに協力することができる。
	関係を構築する力	様々な他者と円滑な関係を築く力	自分とは異なる価値観や文化を持つ他者や、バックグラウンドが大きく異なる他者とも円滑な関係を築くことができる。	互いの状況や立場についての理解を深め合うことにより、相手と円滑な関係を築いていくことができる。	相手の状況や立場を理解し、共感を示しながらコミュニケーションすることができる。	自分の気持ちを一方的に伝えるだけでなく、マナーを守り、相手を尊重してコミュニケーションすることができる。
問題に対応する力	分析し、思考する力	様々な情報を収集、分析し、論理的に思考して課題を発見する力	必要な情報を収集し、多角的な視点から分析を行うことで、新たな課題を発見することができる。	情報・資料の分析を通じて、物事を多面的に見ることにより、問題の新たな側面を発見することができる。	自ら情報・資料を収集し、それらを分析し、自分なりに考察することができる。	与えられた情報・資料を客観的に読み取ることができる。
	構想し、実行する力	課題に対応するための計画を立て、実行する力	収集した情報や知識を活用しながら合理的な計画を立て、着実に実行することができる。	計画の進捗状況を確認し、必要に応じて計画を修正しながら、着実に実行していくことができる。	大きな問題が生じなければ、自分の立てた計画通りに実行することができる。	取り組むべき物事に対して合理的な計画を立てることができる。
	実践的スキル	現代社会において必要な基本的スキルと自らの強みとなる実践的スキル	問題解決に役立つ様々なスキルを組み合わせて、状況に応じて柔軟に活用することができる。	自らの強みとなるスキルを身につけ、問題に対応することができる。	学びに必要な基本的な事柄を自らのスキルとして活用できる。	学びに必要な基本的な事柄（コンピュータの使い方やレポートの書き方など）を理解している。

Ⅲ-2 アクティブ・ラーニングの質保証

AL 質保証に関する指標開発のための基礎研究

AL を実施している授業に対して調査協力を求め、いくつかの授業について授業でのクリック調査を実施した。この調査から得られたデータを蓄積し、結果を中間報告としてシンポジウムで報告した。また、PROG/JUES の結果を分析し、FD/SD で簡易フィードバックとして教職員に提供し、本学の優れている点とこれからの課題について共通理解を図った。また授業紹介冊子「Good Practice」を配布し教員同士で情報を共有した。

収集したデータから、AL 授業の集中度や意欲を測定することができ、個々の授業でのAL の特徴を把握することができた。PROG 等の外部評価の結果から、全学的な AL の導入や積極的な活用が効果をあげてきていることが明らかになり、また本学独自調査でも AL が学生の学修意欲を高め、授業外学修時間の向上にもつながっていることがわかった。



アクティブ・ラーニングに関するシンポジウム・スキルアップFDの開催

11月に帝京大学から講師を招いて、自律的学修者の育成とALについてのシンポジウムを開催し、同時に本学ALの効果測定の中間報告を行った。(参加者67名)

シンポジウムは学生も聴講しており、学生は授業で取り入れているALの特性を学ぶことができた。学生自身が授業の特徴を知り、より効果的に授業に参加することが期待できる。

【開催概要】

「アクティブ・ラーニング～実りある実践に向けて～」

基調講演 「自律的学修者の育成とアクティブ・ラーニング～理論から実践へ～」
土持ゲーリー法一氏 (帝京大学)

調査報告 「アクティブ・ラーニングは学生の集中度と意欲を高めるか」
AP 特任研究員 佐藤賢輔氏

質疑応答

日時 2015年11月21日(土) 14:00-17:00

場所 共愛学園前橋国際大学 1号館 1101教室(チャペル)



Ⅲ-3 学修成果の可視化による主体的学修の支援の充実

学修行動調査の実施

H26 年度に検討した授業外学修時間に関する授業アンケートを 7 月と 1 月に実施し、学修行動調査を全学年の 4 月、学修達成度調査を 2 ～ 4 年生の 4 月に実施した。それにより現段階の学修の行動および到達度に関するデータが収集できた。

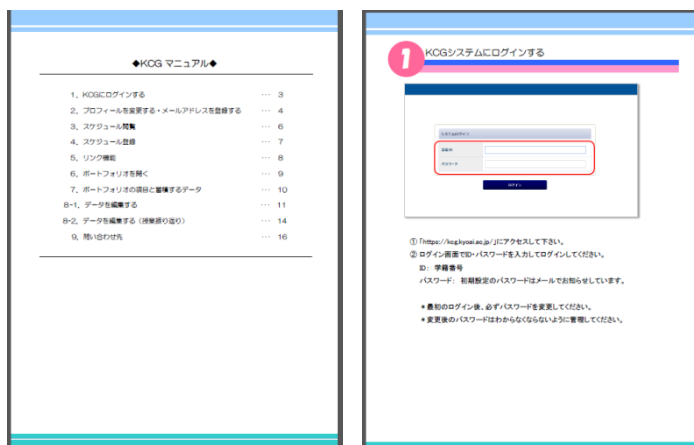
JUES は 7-8 月の 1 か月間に 1 年生と 4 年生を対象に実施した。(JUSE 回答者数:1 年生/129 名、4 年生 89 名) 今後の継続的な調査によってデータを集積することで学修成果指標の開発と教育改善のための有効な資料となる。(再掲)

KCG (Kyoai Career Gate : ポートフォリオ) を活用した学修成果の蓄積とリフレクション

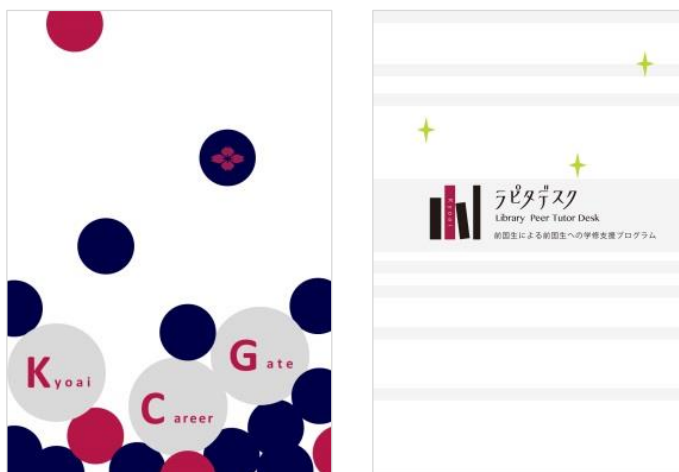
KCG は機能を本学仕様に充実させ、後期より全学性を対象として運用を開始した。利用定着のため利用・操作説明書を作成し、KCG をイメージしたクリアファイルを配布することで利用促進と周知を高めた。KCG の利用目的と操作方法についての説明を、全教職員及び全学生を対象に実施した。

リフレクションは、「共愛 12 の力」(学修成果指標)の説明が必要であることと、後期の成績発表後が望ましいため、全学生を対象として次年度のオリエンテーション期間に実施することとした。

4 年生の一部学生に対しては、暫定的なループブックによるリフレクションを実施した。



学生用マニュアル (部分)



クリアファイル (表・裏)

SD/FD 研修の実施

9月と2月に教職員全員が参加するSD/FDを実施し、学修成果の可視化システムとしてのKCGに関する研修と、「共愛12の力」および「共愛コモンルーブリック」の検討会を実施した。また、本学のAL効果測定分析結果および外部評価の分析結果を共有することで、本学のALが学生にとって有用なものである一方で、授業外学修時間の確保等の課題について、共通理解を得ることができた。

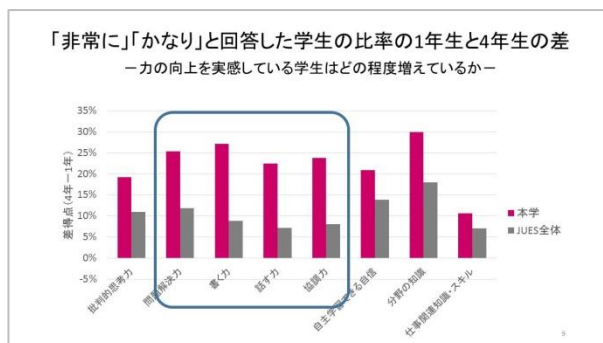
またKCGに関する操作説明と活用方法について共有し、学生指導のための利用促進へつなげた。



AL効果測定分析調査報告



ポートフォリオ操作説明



AL効果測定分析資料（一部）

就職活動に関する「困りごとアンケート」から分かること

- ・応募書類が書けない。
- ・自己分析が出来ない。
- ・業界研究が出来ない。
- ・志望動機が書けない。
- ・面接で上手く表現が出来ない。
- ・etc....

自分のことを理解する
自己分析力が無い
(キャリアを考える上での
必要な情報の蓄積が無い
まま4年生になっている)。

ポートフォリオ活動を1年度から継続すること
により、自己プロデュース力を身に付け、
就職活動に活かす。

Ⅲ-4 学修成果達成度による教育改善

ステークホルダー調査の実施

在学生を対象に、授業アンケート・学修行動調査等を実施した。（再掲）それにより現段階の学修の到達度のデータが収集できた。今後の継続的な調査によってデータを集積することで学修成果指標の開発と教育改善のための有効な資料となる。

その他、ステークホルダー調査では卒業生調査の内容を検討し実施した。卒業生の就職先 991 社の人事担当者に電話し、卒業生との仲介を依頼すると同時に、担当者から卒業生の現状について調査した。さらに、就職先企業を通して卒業生 185 人から今後の協力の了承うけ、大学での学修と業務との関係について今後調査する。その結果を在学中の学修や活動の履歴と結びつけて分析することによって、教育プログラムの見直しを図る。また 2 月には本学で開催した業界セミナーにおいて、参加企業に対して大学での学びや学生の成長への関心についてアンケートを実施した。（回答数：90 社）この結果を受け、KCG+S（ショーケース）を活用して、学修内容や学生の成長について情報公開することの有用性を確認できた。

他大学への視察、各種セミナーへの参加

4 月に学修成果指標作成について学ぶため、宇都宮大学を視察した。9 月には明治大学の AL 実践研究セミナーに参加した。11 月の千葉大学の ALPS セミナーでは、学修支援の取り組みについて学んだ。12 月には河合塾の国際基準の大学教育改革についてのシンポジウムに参加し、本学が参加する JUES 調査に関する知見を得た。また帝京大学の FD フォーラムに参加し、ポートフォリオやリフレクションの活用について学んだ。1 月には先進的な学修支援と教育環境整備を行っている金沢工業大学を視察した。3 月には光華女子大学 AP 報告会に参加し、今後の知見を得た。本事業の先進的な取り組みを行う大学を視察することは、本事業を担当する教職員が有意義な知見を得ることができるとともに、学生が実際に必要としている環境やプログラムを策定するための情報収集となった。

- ・宇都宮大学視察（2014/11/13）
- ・明治大学 AL 実践研究セミナー（2014/12/11）
- ・千葉大学 ALPS セミナー（2014/12/22）
- ・河合塾シンポジウム（2014/12/22）
- ・帝京大学 FD フォーラム（2016/2/28）
- ・金沢工業大学視察（2016/1/26）
- ・津田塾大学 WCAJ（2016/3/5）
- ・光華女子大学シンポジウム（2016/3/12）

自己点検の実施

内部点検を実施し、来年度外部評価を実施するための評価委員の招聘し、委員会の体制を整えた。

また H28 年度に大学基準協会の大学評価を受けるための自己点検資料を提出するために、AP で取り組んでいる「学修成果の可視化」「アクティブ・ラーニング」に関する内容を中心に、学修の質保証の情報を整理した。評価を受けることは、よりよい運営改善へとながり、最終目標となる自律的学修者育成の支援を進捗することができる。